

令和 3年 9月 9日

運営委員 滝浪 龍司

※ 地域の林業・木材産業の情勢についてコメントをよろしくご願ひ申し上げます。

静岡市森林組合に聞くと、森林所有者に原木の増産を要請しても難しいとのこと。これは、利用間伐による原木生産が、経営計画を立て、それを基に補助金申請をし、申請が認められてから施業に入るため。

県森林組合連合会は原木市場を経営しているので地元への原木供給に協力的だが、山からの出材が増えないとどうしようもない。また、なるべく県内の製材に原木供給したいので、随意契約を使い直接取引を増やしているが、原木市場に出ているものは値段、取引先ともコントロールできず、単価が上昇。また県外流出は避けられないとのこと。

製材は、原木価格が県外に引きずられるが、県内は大規模製材が少なく、販売先のほとんどが地元なので、そこまで値上げできていない。

以上は静岡の内地材状況です。

販売業に聞くと、外材は3月くらいからファックスなどで一方的に値上げを告げられ、尚且つ必要量に足りない量が予定より遅れて入ってくる。6月くらいからアメリカの現地引き価格の低下の情報が入ってくると、すぐに取引先から値下げ要請や値下げ時期の問い合わせが増えたそう。実際には高値で契約した製品がまだこれから入ってくるので値上げをしなくてはならないが、取引先がどこまで納得してくれるかが悩みの種だということでした。

工務店は、製材や販売と密接なところは何とか供給が出来ているが、一部外材を使用している30mm×40mmや合板などが苦勞しているとのこと。施主に対して請け負い金額の値上げや着工時期をずらすなどの対応をしている。ウッドショックは大きなニュースになっているので理解してくれる施主さんもいるが、あきらめる方も出ているそう。

工務店さんは今後の外材使用について検討を始めている。これをチャンスに少しでも内地材の使用率が増えればと考えています。